

フェニックス3期神戸沖埋立処分場（仮称）設置事業
に係る環境影響評価審査会 答申に関する
専門部会報告（案）

令和3年6月

神戸市環境影響評価審査会専門部会

神戸市環境影響評価審査会運営規程第9条第2項の規定に基づき、神戸市環境影響評価審査会から付議された「フェニックス3期神戸沖埋立処分場（仮称）設置事業 環境影響評価準備書（以下、「準備書」という。）」に係る水質、動物、植物、生態系について慎重に審議を重ね、下記のとおり意見を取りまとめた。

今後開催される神戸市環境影響評価審査会における審議を通じて、適宜、意見を追加・修正していただきたい。

記

I はじめに

本事業は、平成8年～平成9年に環境アセスメントを実施し、平成9年12月に公有水面埋め立て免許を取得した六甲アイランド南建設事業のうち、陸上残土等による埋立を計画していた未施工地を廃棄物最終処分場として整備、利用するものである。

本事業に係る環境影響評価は、予測・評価の対象とした各環境要素について、概ね適切に実施されている。

今後、計画の詳細設計を検討していく過程において、本意見に十分留意したうえで、環境に配慮したより適切な環境保全措置を検討し、積極的かつ柔軟に実施していく必要がある。

1 全般的事項

(1) 護岸への藻場の形成

海洋生態系において藻場は重要な役割を担うほか、陸域の森林等と同様に二酸化炭素を吸収・固定化する作用がある。準備書においては、海生生

物の生息・生育環境の保全・創造に効果がある捨石傾斜堤式護岸を採用しているが、これを確実に実施するとともに、護岸の詳細設計にあたっては、護岸の表面を凹凸の大きいものにするなど、藻場が形成・維持されやすい護岸構造を検討する必要がある。

(2) 環境影響評価書における詳細な記述

準備書において、施工性や経済性などの各種要件を比較したうえ最適な護岸遮水構造を総合的に検討した結果、遮水シート式を採用しているが、当該遮水シート式の安全性・耐久性に関する説明が十分になされているとは言い難い。

廃棄物最終処分場において、遮水性能は最も関心の高い事項の一つであることから、遮水性の確保に関する情報を積極的かつ丁寧に説明する必要がある。

(3) 事後調査の実施

準備書において、予測の結果は熟度の高い事業計画に基づいており、環境保全措置の効果の不確実性も低いことから、環境影響評価法に基づく事後調査は行わないとしているが、予測方法の妥当性及び予測評価の結果を検証するとともに、環境保全措置の履行状況を確認するため、神戸市環境影響評価等に関する条例に基づく事後調査を実施する必要がある。

また、廃棄物最終処分場の遮水性能が継続して機能しているか等を確認するために、廃棄物の埋立終了までの間、あるいは廃棄物最終処分場からの浸出水の水質が安定化するまでの間、周辺海域の水質モニタリングを行うことが望ましい。

なお、事後調査の過程で、予測した環境影響に大きな差異が生じた場合

や、現時点で予測しえなかった環境影響が生じた場合は、関係行政機関に報告の上、状況に応じた適切な環境保全措置を速やかに行う必要がある。

2 個別的事項

(1) 水環境

- ア 護岸工事による水の濁りの影響を低減するため、汚濁防止膜を適切に設置する等の措置を確実に実施する必要がある。また、水の濁りに関する措置が効果的に実施されているかどうかを確認するため、事業実施区域周辺の水の濁りや付着生物が生息・生育しうる場所への浮泥堆積状況を定期的に調査することが望ましい。
- イ 遮水シートが十分な遮水性能を有していたとしても、施工方法に不備があった場合は必要な遮水性能が得られないため、施工中の管理を徹底する必要がある。
- ウ 排水処理施設の適切な運転管理及び維持管理を行うとともに、定期的に水質管理を行い、適正な水質の確保に努める必要がある。

(2) 動物, 植物, 生態系

- ア 生態系の注目種としてワカメを選定しているが、水温など本事業以外の要因からの影響を比較的受けにくいとされるアカモク、シダモク、タマハハキモクを指標種とすることが望ましい。
- イ 本事業実施区域を含む六甲アイランド南建設事業は現在も工事中であるが、一部の護岸は既に整備されており、これらの護岸には藻場が形成されるなど、新たな生態系が形成されている。そのため、工事による水の濁りが、既に形成された藻場や今後形成される藻場に与える影響を最大限低減する必要がある。

神戸市環境影響評価審査会専門部会 提出資料一覧

- 資料6 第192回審査会における委員意見に対する回答
【令和3年3月 大阪湾広域臨海環境整備センター】
- 資料7 第192回審査会における委員意見に対する回答
【令和3年5月 大阪湾広域臨海環境整備センター】
- 資料8 専門部会（3月15日開催）における委員意見に対する回答
【令和3年5月 大阪湾広域臨海環境整備センター】
- 資料9 専門部会（5月28日開催）における委員意見に対する回答
【令和3年6月 大阪湾広域臨海環境整備センター】
- 資料10 「フェニックス3期神戸沖埋立処分場（仮称）設置事業に係る環境影響評価準備書」の公告、縦覧及び説明会開催についての報告、並びに意見書の提出による意見の概要及び当該意見についての事業者の見解について
【令和3年3月 大阪湾広域臨海環境整備センター】
- 参考資料1 神戸市環境影響評価審査会専門部会 委員名簿
- 参考資料2 神戸市環境影響評価審査会規則及び運営規程

神戸市環境影響評価審査会専門部会 審議経過

回	開催会種別	開催日	開催場所	審議内容
第1回	専門部会	令和3年3月15日(月) 9:55~12:05	神戸市環境局 研修会館	○個別事項の審議
第2回	専門部会	令和3年5月28日(金) 10:00~11:45	神戸市環境局 研修会館	○個別事項の審議 ○専門部会報告 骨子案の審議
第3回	専門部会	令和3年6月9日(水) 10:00~12:00	神戸市環境局 研修会館	○個別事項の審議 ○専門部会報告案の 審議

神戸市環境影響評価審査会専門部会 委員名簿

(敬称略・五十音順)

氏 名	役 職 名
岡 村 秀 雄	神戸大学内海域環境教育研究センター教授
○ 川 井 浩 史	神戸大学内海域環境教育研究センター特命教授
藤 原 建 紀	京都大学名誉教授
◎ 山 下 淳	関西学院大学法学部教授

◎部会長 ○副部会長